http://decfamily.p1.bindsite.jp/2012/

We 15R

No.090　12/10/18

国語関係クイズ

１　市販されている（普通の小型タイプの）国語辞典の、ちょうど真ん中のページに出てくる言葉は何でしょう？

Ａ　五十音の真ん中だから「ぬ」くらいかなと予想するのが普通だろうが、国語辞書のページ口を見てみると、以外にア行、カ行、サ行の言葉多いことに気づくはずである。

私の手もとにある「新明解国語辞典（第７版）」は、付録も含め1680ページあるが、その真ん中の840ページ目には、「せんかん（専管）」から「せんくん（先君）」が掲載されている。また、「明鏡国語辞典（初版）」では、1814ページある中央の907ページには、「せめさいなむ（責め苛む）」から「せりだす（迫り出す）」が掲載されている。「広辞苑（第６版）」は3050ページで、1525ページには「スラヴ」から「スリーブ」が登場する。

実は「し」で始まる熟語や漢語が多く、そのせいで「し」の項目数が一番多い。その結果、辞書の中央は「せ」とか「す」とかになってしまうのである。ついでに常用漢字の音訓表を見てみても、音がカ行・サ行である漢字が圧倒的に多いことが分かると思う。どうしてそうなのか、興味のある人は調べてみるとイイだろう（ちなみに私は知りません）。

こんなことも、紙の辞書と付き合っていることで分かる日本語の特色なのである。

＊

２　松尾芭蕉は、若い頃に「桃青（とうせい）」という俳号を用いていたが、それは、ある有名な中国の詩人を敬愛してのことである。さて、その中国の詩人とは誰？

Ａ　李白。李は「すもも」。芭蕉は、「すもも」に対して「桃」を、白に対しては「青」を用いてパロディにしているのである。なお、白は「著し（しるし）」＝ハッキリシテイルの意であり、青は「淡し（あはし）」＝ぼんやりしているの意であるから、謙遜の気持ちがあったのかも知れない。

夏目漱石の「漱石」が、『世説新語』という本にある「漱石枕流」（負け惜しみの強い孫楚という人の逸話）をもとにしたペンネームであることも有名。自らを頑固者だとする自負（自嘲？）がこめられているという。

＊

３　「活魚」の正しい読み方は、①かつぎょ　②いきうお　③いけうお　のどれ？

Ａ　料理店のメニューに見える「活魚料理」であるが、由緒正しい読み方は③である。もちろん、現在では①や②の読み方もされていて、むしろ③よりも優勢だそうだ。

ちなみに「活作り」はどう？　これも由緒正しいのは「いけづくり」だが、最近は「いきづくり」が優勢らしい。ただし、さすがに「かつづくり」はない（笑）。

「由緒正しい」というのは、この「いけ」が、動詞「生く」の連用形から来ているからである。古くから「いけす（生け簀）」や「いけにえ（生け贄）」といった語があるし、そういえば「いけばな（生け花）」もあった！と気づくだろう。言葉は変化するものだが、その源をたどるのは楽しい作業である。